

## 第8回 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 議事要旨

日時	令和4年4月22日（金）15時15分～16時25分
場所	武蔵野市役所812会議室
参加者	委員長、委員14名、事務局3名 計18名

### ■配布資料

- ・第8回 ICT活用推進リーダー連絡会報告（資料1）
- ・武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 開催予定（資料2）
- ・第8回 ICT活用推進リーダー連絡会報告（端末の持ち帰りに関する現状）（資料3）

### ■内容

#### 1 開会

自己紹介（今回から参加する委員、事務局）

#### 2 事務局から

##### （1）ICT活用推進リーダー連絡会の報告（資料1）

（事務局）

各学校からの課題、要望が数多くあった。転入生が予想以上に多く端末不足や春休みに校務用パソコンからGoogleドライブへアクセスできずに困った、といった意見があった。

活用事例については、まとめたスプレッドシートがGoogle Classroomの方に入っているため、ご確認いただきたい。

##### （2）今後の委員会の議題について（資料2）

（事務局）

第8回から第13回の議題についてまとめている。特に、次回5/27（金）ではデジタル・シティズンシップ教育について議論していただき、それを土台に各校で実践、その後課題の検討を行い来年度につなげていきたいと考えている。

（委員長）

資料1、2について意見、質問等はあるか。

（全員）

特になし。

### 3 協議

学習者用コンピュータの持ち帰りについて（資料3）

（事務局）

小学校では原則3年生以上が毎日持ち帰ることになっているが、中にはいつでもオンライン授業に対応できるように1年生から持ち帰っている学校もあるという報告があった。その際には、荷物が重くならないよう教科書を学校に置いていかせるなどの配慮をしている。

中学校では持ち帰った際に充電を忘れ、学校に来て充電している生徒がいるという報告があった。現状はまだ少ない人数だが今後増えると心配だという声も挙がっている。

自宅にWi-fi環境がない生徒について、放課後に学校の図書館で課題ができるよう対応している学校もある。

保護者から子どもが夜遅くまで使用して困っているという相談が小中学校から挙がっている。

こうした状況を踏まえて、学習者用コンピュータを自宅に持ち帰ることのメリット、デメリットをご協議願いたい。

（委員長）

メリット、デメリットについて意見や質問はあるか。

現状1、2年生は置いて帰る、3年生以上は持ち帰るという運用になっているが、1、2年生も持ち帰らせているという学校はあるか。

（委員A）

2年生は持ち帰らせることもある。

明日の連絡、調べもの等で慣れさせるため、いつオンライン授業に切り替わっても対応できるようにするために持ち帰らせている。

（委員長）

メリットとして家庭学習に使える、家庭への連絡帳代わりになる、突然の学級閉鎖でオンライン授業になった際の備えになるという3点が挙げられるということか。

（委員A）

持ち帰ることや触れることととにかく慣れさせるためにというのが根本にある。

3年生になって急に持ち帰るということではできないため、経験値を上げておく必要がある。

(委員長)

学校の授業以外に家庭でも使うことで、経験値を上げるメリットがあるという意見が出た。

他はいかがか。

(委員B)

持ち帰ることのメリットはよく分かった。そもそもの運用としては、使用時間が短いだらうということと1年生においてはまず鉛筆で書くことを覚えさせるべきということで、1、2年生については充電保管庫を設置している。3年生以上は持ち帰り充電してくるということで、充電保管庫は設置しないという導入になっている。

いつ学級閉鎖になるか分からず、濃厚接触者となり学校に取りに行くことができない状況もあるため、慣れさせたいというところもある。

家庭で使用することで保護者も学校で何をやっているのか見ることができるというメリットもあるが、本当に低学年にも持ち帰らせることが良いのかについて、今後の武蔵野市としての方針のためにも意見を聞きたい。

(委員A)

正確には3年生と同じように持ち帰らせている訳ではなく、週の何回か持ち帰るということにしている。

昨年クラスによってその頻度に差が出たところは反省点であった。

一斉に持ち帰らせて、必要な時に持ってくるようにするという期間もあった。

このように、昨年はいろいろと試行した。

(委員長)

そうした試行の中で不都合はあったか。

(委員A)

大きな不都合は特になかったが、金曜日に持ち帰らせると荷物が多くなり大変になってしまった。荷物の重さ、雨の日の対応などやってみていろいろ分かったことはある。

(委員長)

他の学校はどうか。

(委員C)

一年間の感想を先生たちに聞いてきた。

1年生：持ち帰らせる試みをしたが、まず充電器を外す作業が大変だった。1年生には重すぎたため、国語と算数以外の教科書は置いていかせるという対応をとったが、教員が次の日使う教科書を把握して配布するといった作業が大変だった。また、1年生には次の日使うものを用意するという習慣を身に付けさせたいが、教科書を置いて帰ると身に付きにくくなるという課題も見られた。

2年生：家庭でより学びたいという児童には持ち帰らせるという対応をしていたが、その分他の教科書が置き勉になるため、それはまた課題ではないかという意見が出た。

(委員長)

コロナに感染するのが心配で自宅学習にしたいため持ち帰らせたいという事例もあった。

しかし、そうした特別な事例以外では習慣を身に付ける点でよくないのではないかという意見が出た。

(委員D)

6年生の話になるが、毎日充電しなくても支障はないのに重いものをなぜ持って帰るのかと児童から不満が出たことがあり、貴重品は置いていかないからと言って対応したこともあった。持ち帰り宿題をするなどの理由があるならば持ち帰ると思うが、現在はドリルのような教材を入れることができない。パソコンでドリルができるなど持ち帰る必要性が子どもたちにも理解できると良いのではないかと考える。

家庭でのルールについて保護者会で話題になり、宿題と言って別のことをしていることがあるという話があった。

持ち帰ることで自主学習に活用したり、クラブ活動での調べ学習をしたりすることがあるが、保護者からすると課題に使用しているのかそうでないのかが判断できない点が課題だと感じた。

(委員長)

中学校の立場からメリット、デメリットについて何か意見はあるか。

(委員E)

中学校では保護者から荷物が重くなるので教科書を学校に置かせてほしいとの要望があったため、今年から全学年共通で全教科の教科書を自己責任で置いて帰ってよいこととし、Chromebookは持ち帰らせて使わなくても毎日持って来るようにしている。勉強に使う生徒は教科書を持って帰ることもあるが、1年生は特にほとんどが置いて帰っている。

(委員F)

すべての教科でデジタル教科書を使用しているわけではないため、教科書を全部置いて帰らせると家族全員がコロナに感染した場合担任が届けるという事例があった。長期的にオンラインで授業を受けることになった場合、教科書がないと厳しい。

宿題をまなびポケットで出したり調べ学習を出したりするが、家庭の事情でWi-fiを設置できない生徒もあり、学校で宿題をする場所を用意する必要がある点も課題だと考える。

保護者から重いのに使わない日に持っていくのはなぜか、といった声があがっている。

(委員長)

小学校では重いため、中学校では持ち帰っても使わないなら学校に置いておいてよいのではないか、という意見がある。

(委員G)

中学校では持ち帰らせると持ってこない、持ち帰るように言っても持ち帰らない、という生徒がクラスに10人くらいいる。どちらかに長く置いておきたいように見える。

何かするにもまず持ってませんから始まり、別対応が必要になったり、掃除の際に思いもよらないところにChromebookが置いてあったりする。

一旦移動させたら、そこから動かしたまらないという中学生像があると思う。

(委員H)

特別支援学級はどうしているのか。

(委員I)

特別支援学級はスクールバスがあり重さの問題はあまり関係ないため、1年生から持ち帰っている。学校だけでなく家庭で保護者が見守る中でも触れることが大切だと考えており、特別支援学級はiPadを使用しておりアプリを自由に入れられないようになっているため、持ち帰らせるようにしている。

また、小学校としては昨年から決められた宿題を出すことはやめて、各自理科、社会、体育の体操などで必要だと思うものを考えて宿題として調べるようにしている。学習者用コンピュータはフィルタリングがかかっているため、保護者も安心できる。

一方で使用する機会が多い分破損が多く、修理が受け付けてもらえない、修理期間が長くその間使えないといった課題があった。

(委員長)

持ち帰りについて他にメリット、デメリットはあるか。

(委員J)

低学年は重さ、接続を戻す難しさという課題があり、高学年は持ち帰ると使い過ぎる、保護者から見て何をしているか分からないという課題がある。中学生や高校生の兄弟が使用し、設定が変わってしまう事例もあった。課題のために持ち帰るが次の日充電を忘れてしまい、教科の成績に影響してしまうこともある。また、物を挟んで液晶が壊れてしまった事例もあった。年度末には兄弟間で充電器の取り違いがあり、回収の際に手間取った。

(委員K)

委員Gと同意見で使い慣れている人とそうでない人との差が大きく、その差が持ち運びにも影響しており、授業で使用する際に持ってきている人とそうでない人がいる。そのため、授業ではデジタルとアナログの両方を用意しなければ進行できないというのが現状である。

(委員長)

他に持ち帰りのメリット、デメリットについて意見等はあるか。

(委員L)

1年生の保護者会で、夜布団の中など保護者の目が届かないところで使ってしまうため対応してほしいという要望があった。

市として夜使えないようにするフィルターなどを入れてもらえないか、という要望が小学校、中学校ともに出てくるのではないかと思う。「持ち帰る」という点において、このことは検討できるのではないか。

(委員長)

他に家庭での使用について何か要望があったり、話し合ったりした学校はあるか。

(委員D)

要望ではないが、Google Classroomで遅い時間まで学習と関係ないやりとりがあり、学級でこの使い方は良いのか、と取り上げたことがある。デジタル・シティズンシップ教育のためにも、注意をするのではなく自分たちで考えさせるようにしている。

(委員長)

家庭での使い方について学校側が何かするというよりも、それぞれの家庭内などで話し合ってもらうことが学びにつながるのではないかと。

(委員M)

1、2年生の持ち帰りについて、2年生の後半あたりでは重さに慣れることも含め、週に何回か持ち帰るのは練習という意味で良いと思う。3年生は担任や教科などいろいろ変わってやることも増えるため、2年生から少しずつ慣れていった方が良いと考える。ただし、全体として2年生の後半からと決めてしまうのは難しく、学級の様子や発達段階、保護者などの状況に合わせて進めていく方が有効である。

持ち帰っても使わないという状況について、国語で音読の宿題を毎日出すなど、持ち帰って必ず使うような状況を作るのが有効だと考える。ただし、毎日そうした課題を出すことも難しいため、たまに使わない日があるのはそういうものだと考えるしかない。

持ってきて何もしない状況について、持ってきて何かに使ったという行為が重要なため、出欠をGoogle Classroomで取ったり、連絡をChromebookで回したりする等必ず使う機会を設け、さらに教科間でも連携をして活用していったらどうか。

布団の中で使うことについて、寝つきが悪くなるため、健康管理の面から見ても好ましくない。

こうしようと決めづらいことではあるが、学校や学級の状況、学年等によって違った対応をしていく必要がある。

(委員長)

市全体、各学校、家庭、児童自身がそれぞれ考えていく必要がある。

(委員B)

基本的に何か制限を加える予定はなく、その中でどうしていくか。学級で採り上げて自分たちで考えさせることが大事ではないかと考える。

家庭の役割としてお願いをしているが、目の届かない家庭もあるため、家庭の役割の場合分けが必要ではないかと思う。

委員Iの学校のように、授業の延長で使用する場合はそこで完結しているが、宿題となると保護者の管理ができなくなるため、授業の作り方というところも考えていく必要があるのではないかと思う。

中学校で家庭学習としてeライブラリを活用しているという話があった中で、現在利用しているものについて場合によってはソフトの変更含め検討する必要があると考えているが、活用状況についてどうか。

(委員長)

eライブラリについてどうか。

(委員F)

実質eライブラリを使用しているのは数学くらいで、先生が紙の方が使い慣れているためなかなか広がらない。数学では基礎の定着のために繰り返し学習ができるため、休みの間の復習や補助学習として使用している。急にeライブラリに変更というのはなかなか難しく、まだどのような活用方法があるかについて先生たちに周知している段階である。

(委員D)

小学校での活用について、教科書準拠のため授業中の残った時間に使うのには適しているが、問題数が少ないためもう少し問題数があると良いと思う。

(委員J)

授業後の空いた時間やテストの回答が早く終わった場合に使用するには、便利である。

ベーシックドリルをやって紙で記録していたものを、移行していったらと考えている。

選択式であり、書くことも必要だと思うためこれがすべてにはならない。

(委員L)

本校では社会の先生が中心となってアナウンスを行い、昨年は全学年で使っていた。アナウンスは社会の先生が行ったが、生徒たちは他の教科があることにも気が付くため、授業の後半に生徒たちの判断で取り組んでいる時もあった。

使いやすさという点では、一度閉じると再ログインが必要というのは教師として使いづらいと感じる。

(委員長)

他に使用事例はあるか。

(全員)

(挙手なし)

(委員B)

課題として使うには制限があることや、空き時間に取り組めるという状況は分かっていたため、今後も協議していけたらと考えている。特に利点がなければ、他のより良いものを入れるための検討をすることもできると思う。

(委員H)

話を聞いていて、自主学习として「自分で課題を決めて取り組む」ことについてはChromebookで十分対応できるのではないかと感じた。基礎の習得のためには今まで行ってきたものと齟齬が生じる点について、課題だと感じた。その点について新しいものを利用するのか、指導のやり方を見直していくのかについては考えていく必要がある。

(委員M)

算数や数学といった問題を解いて基礎を習得する教科とは相性が良いため、そうした教科を中心に取り入れているというのは分かる話である。

一次的なメリットとして記録が取れるというのも挙げられるが、児童生徒が問題の出し方や並び方について意味や関連性を考えられるようになると良いと思う。問題をただ受け身で取り組むのではなく、その意図まで理解して取り組めるようになると良いと思う。

(委員L)

計算の問題でいうと、Scratchでの自動生成について、もとの仕組みまで気づくことにつながるという話だと思う。実際に中学生ではその点に気づいて自分なりに工夫して利用している生徒もいる。

(委員M)

先生からこの問題がここにある意味は何だと思う？といった声掛けをすることで気づきにつながる。そうすると出題者の意図を理解できるようになり、受験にも生きてくる。生徒が問題の出し方ひとつにも意味があると理解できるようになると良いと考える。

(委員長)

他に意見、感想、質問等はあるか。

(全員)

なし。

#### 4 その他

##### (事務局)

情報提供や質問を受け付けたいと思う。何かあるか。

##### (委員H)

新年度になってルールの確認が必要だったと思う。ある学校では改めて決まりごとの読み合わせをしていた。このように改めて確認したことや追加など何か行ったことはあったか。

##### (委員J)

学級指導で最初のChromebookの使い方についてルールの読み合わせをしたが、学年ごとの決まりについてはそれぞれの判断となった。

##### (委員F)

学校でルールを決めているため、それを新入生にも周知した。できるだけ生徒たちが自由に使えるようにというのが武蔵野市のコンセプトのため、それに基づいた使用ができるようなルールを考えている。

##### (委員D)

プログラミングをどこまで自由にやって良いかが難しい。推進校だったためScratchならよい、自分たちで作ったものなら良いなどいろいろ試した結果判断が難しかったため、遊びに使うのは禁止とした。ただし、係活動などで先生の確認を取ったものは良いとしている。こうした経緯がありつつも、やらないとできるようにはならないため、線引きが難しいと感じている。その中で、児童が自分たちで考え、落としどころを見つけていっている。

##### (委員G)

中学校ではGmailは生徒だけでは使用しないというルールを追加した。

##### (委員I)

自分たちでChromebookを使用する際に私物のマウスやイヤホンを使用して良いか、休み時間の使用は良いかなどが問題になった。

市民科もあるため、教員が決め込むのではなく自分たちで考えさせるようにしている。

昨年度後半あたりから休み時間に使用する人数は減り、外へ遊びに行く様子が見受けられた。「学習」のために使うのだと言い聞かせるとともに、まず「学習」とは

何かを考えさせるようにして自分たちで線引きできるようにしている。

授業でチャットを使う場合の言葉遣いが友達感覚となっており、学習の場であるから敬語を使うように統一した。

(委員E)

1年生にはA4の紙1枚程度のルールを配ったが、特別なことはしていない。

休み時間に使わないとは決めていないため、時期が経つにつれ休み時間に使わなくなったということはなく、外で遊ぶ生徒もパソコンを使う生徒もいる。「学習者用」であるため音楽を聴くといった学習外の使用はしないようマナーとして指導しているが、休み時間に使用禁止とはしていない。

(委員K)

生徒会活動として使い方が悪い時には注意をするなど、自分たちで考えながら使っている。

(委員A)

具体的な事例をあげてこの時はどうする、というのを子どもたち自身に考えさせる機会を都度取っている。

昨年度末から考えていることだが、子ども、保護者、学校が連携してルールの確認が循環するようにする必要がある。学校から一方的にルールを発信するだけでなく、家庭でチェックを行うといった連携が必要である。

(委員C)

休み時間の使い方については差があったため、学校で決めた。

今後の動きとしては代表委員会等を通じて意見を集めるなど、自分たちでルールを作る流れにしていきたいという話が出ている。

(委員長)

他に質問等あるか。

(委員C)

充電器の予備が一つもない状況があり、充電を忘れた場合や長時間使用する時のために充電できる環境を検討していただけるとありがたい。

(委員F)

授業中に途中で充電が切れるという事例があったため、本校では45W以上の充電器を10個購入した。

(委員L)

指導課にて購入し、支給という話を聞いたがどうなっているのか。

(委員B)

検討委員会で話題になった機器については基本的に学校予算で購入となったが、充電器は高価という話から予算の残りで購入という話になっているため、確認して返答する。ただし、数があるわけではないため、学校の方でも臨機応変に対応していただきたい。

(委員F)

もともとあった充電器で断線したものについては、新しいものが指導課から送られてきた。

(委員B)

もともとあった充電器についてはそのように対応しているが、それ以外の予備の充電器という話については確認して返答する。

(委員L)

断線した場合、新しい充電器はラベルをつけた状態で指導課から送られてくるという認識でよろしいか。

学校で同じようなラベルを作るのは難しく、回収の際に番号が合っていないと困るのではないか。

(事務局)

番号が合致していなくても構わないとしている。昨年度の三学期ごろに学校に周知している。

(委員L)

確認する。

(事務局)

次回は5月27日(金曜日)を予定している。

以上